会　議　議　事　録

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">平成２７年度　第１回　学校関係者評価委員会</td><td>専門学校
東京工科自動車大学校世田谷校</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="4">平成２７年７月１日（水）　１７　時　～　１９　時</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="4">専門学校　東京工科自動車大学校世田谷校　４０２教室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参　加　者</td><td>委員</td><td>７人</td><td colspan="2">井組　浩紀、植平　誠、大道　毅
森田　隆、高山　雅光、小野　宗憲</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>３人</td><td colspan="2">小林　完、澁谷　健、菅井　充</td></tr>
<tr><td>欠　席　者</td><td>委員</td><td>１人</td><td colspan="2">谷川　潮</td></tr>
<tr><td>会　議　碌</td><td colspan="4">1．校長挨拶
小林校長より、本学校関係者評価委員会開催に向けての挨拶が話された。
2．委員の紹介、議長の選出
・委員の紹介および議長の選出を行い、今回の議長は植平委員となった。
3．議事
〇第１号議案
・前回議事録確認
事務局澁谷より、平成 26 年度第２回学校関係者評価委員会会議議事録に沿って前回議事録についての概要説明及び確認が行われた。

〇第 2 号議案
・平成 26 年度自己点検評価について
平成 26 年度自己点検評価概要を事務局小林より「平成 26 年度自己点検評価結果」を元に概要の説明・確認がなされた。

〇第 3 号議案
・平成 26 年度実績（就職、資格）および平成 27 年度入学者報告
平成 26 年度実績（教員研修・就職・資格）及び平成 27 年度の入学者に関して事務局小林より以下の説明がなされた。
・H26 年度の就職結果（内定率・内定業種）について
・H26 年度の整備士資格取得結果について
・H26 年度の在籍・退学者数について
・H26 年度の授業評価(ＡＧ値、課題発生率、課題残率)について
【質疑・意見等】
・退学の主な理由は？
→①学費・病気・家庭事情等、個人的な理由によるもの、②学力不足・進路変更等、学校</td></tr>
</table>

	の教育力によるものとがあり、現状の割合は半々である。後者の改善により目標値に収めることが出来ると考えており、学校としても重点課題として取り組んでいる。 ・退学は校舎によりバラツキがあるのか？ →中野校の留学生比率が高く、語学力不足による落伍から退学に至る率も高い。 ・高年次になって退学に至るのは何故？ →事故、家庭事情によるものが殆どであるが、一級課程の 3 年次において高度な内容の授業への拒否反応が見られ、1・2 年次よりの持ち上げ方に更なる工夫が必要と考えている。 〇第 4 号議案 ・平成 27 年度事業計画報告 平成 27 年度の事業計画の概要について、事務局小林より説明がなされた。 ・教育成果（就職、資格合格）に向けた運営組織体制の確立 ・ブランディングの推進と幹部の意識改革、教職員の啓蒙 ・グループ教職員のあるべき姿の見える化とスキルアップ ・EM の推進における科長の位置付けの明確化と体制づくり ・教育成果（就職、資格合格）に向けた教務体制の確立 ・就職率だけではなく、質を決める目標企業の明確化と指導 ・入学学生の目標に対する的確な評価の実施 ・進級、卒業に関わる的確な評価の実施 ・目標とすべき教育と教務体制の整合について改善を進める ・ルーティーンワークの意識改善 ・募集目標達成への全員参加 ・個々の教職員のスキル向上 企業様の研修等によって教員の専門性を向上させる 就職指導 履修指導・生活指導 ・東京工科グループの H27 年度事業目標（３校共通） ・就職率（２級：８月末８０％、年度末１００％、１級：８月末１００％、年度末１００％） ・資格 JAMCA 主催整備士登録試験模試については全国平均以上を目指す 国家整備士資格　２級：１００％、国家整備士資格　１級：９０％ ・在籍率９５％ ・進級率、卒業率：９５％ ・AG 評価：B 以上 ・学生アンケート：２期末、４期末ともに８０％ 【質疑・意見等】 ・留学生の語学力について、面接試験(会話)ではあまり問題に気付かないが、入社後の実務における、読み書き能力には大きな差を感じる。授業への落とし込みは難しいかもしれないが、

	日頃の学校生活の中に読み書きによるコミュニケーション要素を取り込んで頂けると有り難い。 →現在中野校で試験的に対応を模索中である。出身国によっても指導法を変えなければならず課題は多く、ノウハウも必要な事から専門の外部業者と連携し推進中である。 ・一級課程は今後募集をどのようにしようと考えているか？ →時代に即した技術として一級のニーズは高まっており、東京工科グループとしても定員の拡大を図っている。同時に資格合格率の確保が大きな課題となっている。 ・メルセデスベンツ(MB)コースの設置で、世田谷校全体の人数は増えるのか？ →自動車整備科募集定員(75 名)の内数となるため、総数は増えない。但し現状で例年定員には達していないため、コース設置により全国から学生を呼べる事から従来比ではメリットが高いと考えている。 ・ＭＢコースは通常の整備科と何が違うのか？ →ベースは整備科のカリキュラム(日整連テキスト＋国産車教材)で二級レベルを確保し、ＭＢ特有のカリキュラム＋ＭＢ供給車両及び診断機器による実習を付加する。 ・その他 今日、校舎に入ったら学生が皆、挨拶をしてくれた。とても良いことである 4. 次回日程の確認 平成 27 年度　第２回学校関係者評価委員会開催日程（平成２７年１１月４日）の確認がなされ、委員全員の確認を得た。 以上

会議風景